

私立大学情報教育協会
平成24年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース

F班チームF-1

1

テーマ1

責任ある情報を公表するための
職員の役割

2

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(1)

情報を公表する意義、目的

- 「公開」と「公表」の違い
- ・公開・・・単なる事実の周知
- ・公表・・・公開+α
意味を持たせる

意義: 大学と学生等のミスマッチを防ぐ
目的: 各種情報をさらけだし、**社会全体**が判断できるようにする



3

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(2)

情報公表の現状

F1班では実際に自身の大学のHPを確認致しました。

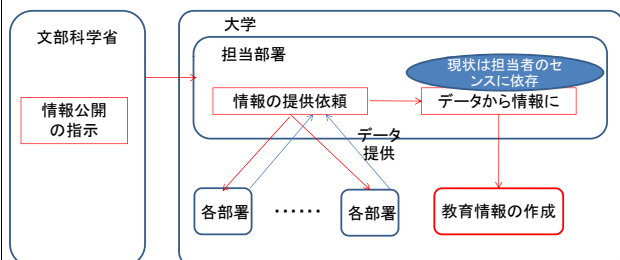


情報公表は学生でもわかりやすく判断しやすいものであるべき。
まだまだ、正しい情報公表ができていないのではないかと・・・？

4

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(3)

教育情報の作られかた



5

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(4)

公表する情報の作り方

現在は公表する情報は情報を作成する担当者のセンスに依存・・・

どうすれば公表する情報の保証ができるのか



- ①職員がデータ分析によりデータを情報化するスキルを身につける。
- ②上記により得たスキルをICTを活用し自動化(属人化を回避)できるようにする。
→作られる情報の精度の保証
- ③ICTにより体系化された情報を社会全体に「さらけ出す」
強みも弱みも情報を公表し、弱みには改善方法を示し、常に改善のサイクルを作成
→公表された情報の質の保証

6

テーマ1: 責任ある情報を公表するための職員の役割(5)

責任ある情報を公表するための
職員の役割についてのまとめ

- ・職員がデータ分析により情報化するスキルを獲得する
- ・情報を保障するための、エビデンス(科学的根拠)を示す
- ・そのエビデンスをデータ分析により得られるシステムをICTを活用して構築する

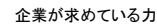
テーマ2

学士課程教育の質的転換を図る
ための職員の役割

テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(1)

教育の質的転換の必要性

学士課程教育
国際的に通用する人材(=学士)を育てる教育
⇒知識を活用して課題解決をする力



企業が求めている力

大学が求める人材を輩出できていない=教育の質的転換が必要...なぜか?

内部的要因

- ①一方向的な講義ばかりで双方向の授業がされない
- ②社会の変化に対し、大学職員は変化に対応してこなかったから
- ③学修時間の低下

外部的要因

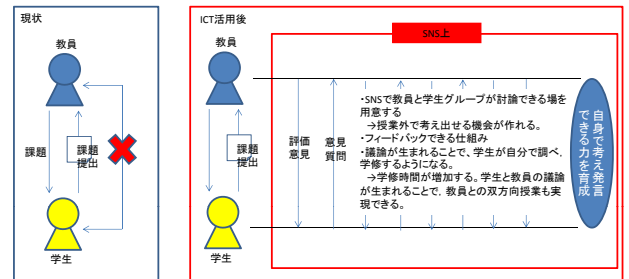
- ①大学全入時代...基礎学力が低い学生も大学に入学する
- ②グローバル化...社会が求めている力と大学が輩出している人材のレベルに乖離が生じている。
- ③昔は「将来のビジョン」を持って大学を選び受験で競い合い入学現在は明確なビジョンを持って入学する学生が減り、誰でも大学に入れるため質の低下が発生



テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(3)

教育の質的転換におけるICTの活用

SNSを利用した双方向教育の実現と学修時間の増加の実現



課題提出後の双方向の議論ができていない

SNS上で時間と場所に捕らわれず双方向の議論を実現 = 学修時間の増加も実現

テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(4)

教育の質的転換に職員の果たす役割

職員の果たす役割は?

- ・職員が時代の変化を読み取り、学内の改善を促す。
- ・教員と協働で改革を実践する。
- ・システム構築の段階から、職員自ら積極的にかかわる。
- ・自ら実践し、事例を作る。教学系の事務部門で実践し、教員に提案していく。

テーマ2: 学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割(5)

学士課程教育の質的転換を図るための
職員の役割についてのまとめ

学士課程教育の質的転換を行うためには、これまでの授業スタイルの変更が必要となってくる。職員はこれまで関与しなかった領域に率先して踏み込み、教員と協働で改革を進めていくことが重要である。

まとめ・テーマ1・テーマ2の関係性について

教育情報の公表を行うことで学士力の保証を宣言する。



学士力の保証の方策として、大学は教育の質的転換を実行する必要がある。



質的転換を実施するためには教員・職員の協力が必要なので、職員は自ら率先し、科学的根拠を示すため変革を行い、その手段としてICT技術を駆使することが重要である。